小国 21（H29）

第２学年　　国語科学習指導案

１　単元(題材)名　「むかし話をしょうかいしよう（かさこじぞう)」

２　単元(題材)の目標

〇いろいろな昔話を楽しんで読んでいる。【関心・意欲・態度】

〇昔話を読んで、昔話のおもしろさを紹介するために、人物の行動や会話に注目して、人物の気持ちを想像しながら読むことができる。【読む】

〇紹介カードに、昔話のおもしろさを書くことができる。【書く】

〇読んだ昔話について、おもしろさを紹介することができる。【言語活動】

３　単元の評価基準

関心・意欲・態度	読む	書く	言語活動
・いろいろな昔話を、たくさん読んでいる。	・じいさまとばあさまの人柄を、想像しながら読んでいる。 ・昔話を読んで、昔話のおもしろさを見つけることができる。	・紹介カードを書くために、おもしろさの観点を思い出して書いている。	・読んだ昔話について、紹介カードにおもしろさを書き、紹介している。 ・紹介カードを読み合い、良いところを伝え合っている。

４　単元と指導の構想

（１）　単元と児童

①　学力について

４月に行ったＮＲＴ国語では、学級の偏差値が　　だった。読む領域「想像を膨らませて読むこと」全国比　　。文章を読み、叙述から人物の気持ちを想像するということが落ち込んでいる。初めて読む文章から問題を解くことが苦手な児童が多いと考えられる。

書くこと領域「理由を考えて書くこと」全国比　　。理由のを付けて自分の考えを書く書き方が多くの児童に定着していない。

②　物語文について

物語文『お手紙』の単元では、人物がしたことやその時の様子を表にまとめた。一人では、人物・時間・場所・したことを見つけられず表にまとめることができなかった子どもでも、ペアで対話させたことによって、表にまとめることができた。

人物の気持ちを想像して自分の考えを書くことについては、「～と思ったかえるくん」などと文例を示したが、どこの文章から抜き出せばよいのかすぐに理解することができずに書くことができない子どももいた。今回は、想像を膨らませるために、手立てを講じる必要がある。

③　読書量について

７月現在（４月～６月）の２年　組の読書量は、月平均９冊読んでいる。学年平均とくらべると、読書量が少ない。朝読書では、本を声に出して読まないと読めない児童が多くいるため、静かに読むということが難しい実態である。７月現在、４月に比べると少しずつ、声に出さなくても読める児童が増えてきた。

読書活動において、図書の時間や朝読書では、絵本や物語は好んで読む子どもが圧倒的に多い。絵本や物語は、カラーで挿絵が魅力的であり、子どもにとってそれだけで読む意欲が高まっている。しかし、昔話を進んで読んでいる子どもは少ない。昔話の本は、小さいときに読んだことがあるから、もう読まなくてもいい、昔話は小さい子どもが読むものというイメージがあるようだ。また、少し厚い本も多くあるために、読んでみたいなという意欲が薄れていると感じる。

④　単元について

「かさこじどう」では、展開のおもしろさを考えながら読むことを学習し、いろいろな昔話を読み、自分が見つけた昔話のおもしろさをまとめて伝えるという学習である。①～④の児童の実態を踏まえて、単元の内容を設定した。

「人物の人柄を想像して読む」「紹介カードの書き方がわかり一人で書く」「進んでたくさんの昔話を読む」力をこの単元で身に付けさせたい。

（２）　指導の構想

①　単元を貫く課題設定の設置

単元を貫く言語活動を設定することで、児童が単元の最後まで、飽きることなく主体的に学習することをねらう。

②　おもしろさを明確にする

昔話のおもしろさは何なのかがわかれば、どの昔話を読んでもそれを見つけながら読むことができる。おもしろさを明確にして、昔話を楽しんで読む手がかりとさせたい。

【おもしろさ①昔話特有の言葉、おもしろさ②挿絵、おもしろさ③物語の変化、おもしろさ④人物の性格・行動】

③　３人での対話・全体交流のよさの価値づけ

２年　組での対話とは、次のように捉える。自分の考えをもち、考えを友達に伝えたり、友達の考えを肯定的にジャスチャーをして聞いたりすることで、自分の考えがまとまる、考えが確かになる、考えに自信が付くことである。さらに、友達の新しい考えに気づき、自分の考えに友達の考えを付け足すことができることである。全体で交流することで、たくさんの新しい考えがあることに気づかせたい。そこから、友達の考えでいいなと思ったことは、自分の考えに付け足すことを指導する。自分の考えが増えていくことは、自分の考えが広がったことになり、このクラスで勉強したら、みんながさらに賢くなった、勉強がさらにできるようになったことを子ども達に価値付けていきたい。

④　司書によるブックトーク

司書から読み聞かせをしてもらうと、その本をもう一回読んでみたいという思いが強くなる児童がたくさんいる。このことから、司書から昔話のブックトークをしてもらうことにより、一人で本を選ぶのが難しい児童も、昔話を選びやすくさせたい。

⑤　昔話シリーズ

『子どもと読む日本の昔話（くもん出版）』のシリーズを読ませる。この本は、Ａ５サイズで、児童の手に取りやすい。１ページに１枚挿絵もあり、挿絵を手掛かりに読んでいる子どもにとっても読

みやすい本である。２４冊のシリーズなので、たくさんの昔話を読むことができる。
自分が読んだ本を紹介し、みんながその本を読んでくれたらうれしくなるだろう。その活動をきっかけに、さらに読書活動を盛んにさせたい。

５　単元の指導計画（全１３時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動（・）	評価				
		関	読	書	言	評価規準
1	○学習の見通しをもつことができる。 ・読み聞かせを聞き、昔話に興味をもつ。 ・紹介カードを作って、全校のみんなに昔話のおもしろさを伝えよう！ という学習計画を立てる。 （単元を貫く課題）	○				・読み聞かせを楽しみ、「昔話のおもしろさを伝える紹介カード」を書く活動に意欲的に取り組もうとしている。（発言・行動観察・ノート）Ｃ（３）
2	○「かさこじぞう」を読み、分からない言葉や難しい言葉の意味を理解する。 ・わからない言葉や難しい言葉を、写真画像等で調べる。	○	○			・分からない言葉や難しい言葉を進んで調べている。（発言・ノート）Ｃ（３）イ
3	○「かさこじぞう」を読んで、おもしろいところを見つけることができる。 ・音読練習をする。 ・じいさま、ばあさまの会話を確認し、役割読みをする。 ・おもしろいところを見つけ、ノートに書くことができる。 （おもしろさ①昔話特有の言葉）	○	○			・おもしろいと思ったところを見つけ、理由を書くことができる。（発言・ノート）Ｃ（３）イ
4	○「かさこじぞう」を５つの場面に分けることができる。 ・挿絵カードの並べ替えをして、５つの場面に分ける。 （おもしろさ②挿絵）		○			・挿絵をもとに、物語を６つの場面に分け、物語の大まかなあらすじを捉えることができる。（発言・ノート）Ｃ（１）イ
5	○「かさこじぞう」のあらすじを一文で表すことができる。 ・場面ごとに「～が～した（なった）話」とあらすじをノートに書く。 ・じいさまがしたこと㊐、ばあさまがしたこと㊥に線を引いてあらすじを考える。		○			・場面ごとに、「～が～した（なった）話」とあらすじを一文で書くことができる。（発言・ノート）Ｃ（１）イ
6	○じいさまとばあさまがよいお正月を迎えられたわけを考えることができる。		○			・じいさまとばあさまが、なぜよいお正月を迎えることができたの

	・二人が、よいお正月を迎えることができたわけを考える。 ・最初の会話文、最後の一文を比較して、変わったことを確認する。 （おもしろさ③物語の変化）					か理由を書くことができる。（３人での対話・発言・ノート） Ｃ（１）ウ
7 本時	○じぞうさまは、なぜ、もちやお飾りを届けたのかを考えることで、じいさまとばあさまへの感謝の気持ちであると捉えることができる。 ・じいさまの人柄が表れているところに線を引き、３人での対話・全体で交流する。 ・友達の考えを聞いて、いいなと思った考えを付箋に書かせ、考えを付け足す。 （おもしろさ④登場人物の性格・行動）		○			・もちやおかざりなどを届けた理由を、じいさまとばあさまへの感謝の気持ちであると書くことができる。 （３人での対話・発言・ノート） Ｃ（１）ウ
8	○「かさこじぞう」の紹介カードの書き方を知り、書くことができる。 ・昔話のおもしろさ①～④を確認する。 ・どんなことを書くのか全体で確認する。 ①　どんな話か　～が～した（なった）話 ②　おもしろさは何か①～④を書く ③　挿絵を描く			○		・①どんな話か②おもしろさ③挿絵を入れて紹介カードを書くことができる。 （紹介カード） Ｂ（２）エ
9	○いろいろな昔話の中から、自分が読みたい１冊を選ぶことができる。 ・司書教諭から、昔話シリーズのブックトークを聞き、読みたい昔話を１冊選ぶ。	○				・自分が読みたい昔話を１冊選ぶことができる。 （行動観察） Ｃ（１）カ
１０	○自分で選んだ昔話を読み、あらすじを一文で書くことができる。 ・「～が～した話」とあらすじを書くことができる。 ・おもしろさ①～④の観点でおもしろさを見つけながら昔話を読む。			○		・「～が～した話」とあらすじを書くことができる。 （紹介カード） Ｂ（２）エ
１１	○昔話を読み、おもしろさを伝える紹介カードを書く。 ・自分で選んだ昔話を読み、おもしろさを伝える紹介カードを書く。 ・おもしろさ①～④の観点で書く。			○		・おもしろさを伝える紹介カードを①～④の観点で書くことができる。 （紹介カード） Ｂ（２）エ
１２	○紹介カードをもとに、昔話を紹介することができる。 ・書いた紹介カードをもとに、自分が選んだ昔	○			○	・紹介カードをもとに、昔話を紹介することができる。（行動観察） Ａ（２）エ

	話を友達と紹介し合う。					
１３	○友達の選んだ昔話を読んで、感想を伝えることができる。 ・友達のおすすめの昔話を読んで、感想を付箋に書き、紹介カードに貼って感想を伝える。			○	○	・友達の選んだ昔話を読んで、感想を書いて伝えることができる。 （付箋、行動観察）Ｂ（２）オ

６　本時の計画（７時間目／全１３時間）

（１）　ねらい

じぞうさまが、もちやおかざりなどを届けた理由について、じぞうさまになりきって理由を考え、３人での対話、全体で交流することを通して、じいさまとばあさまへの感謝の気持ちであることを捉えることができる。

（２）　構想

①　そりを引く体験

６人のじぞうさまになりきって、米のもち、あわのもちの俵、みそ樽、にんじん、ごぼうやだいこんのかますの重さの物をそりに乗せて、６人でそりを引く体験をさせる。　　人全員に引かせたい。

（米の俵一俵約６０㎏の重さをそりに乗せる。）

６人のじぞうさまになりきって、歌を歌いながらそりを引くことで、とても重い、手が痛い、歌いながら引くことができないくらい大変だという体験をするだろう。児童が体験したことから、「(こんなに大変な思いをしてまで､) じぞうさまは、なぜ、もちやおかざりを届けたのか。」という学習課題をもたせたい。体験することによって、学習課題を解決したいという学習意欲を高めたい。

②　３人での対話・全体での交流

３人で対話することで､自分の考えを確かにし､全体で交流することで､新しい考えに気づかせたい。全体での交流の後、自分の考えに友達の考えの付け足しをさせる。

③　共感的に聞くためのジェスチャー

学習指導要領に､「考えを発表し合うとは、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりして～」と書いてある。聞き手が、簡単な感想（肯定的な感想）を声に出し、ジェスチャーをしながら聞いてくれたら、発表者はしっかり伝えようと思うし、自分の考えに自信がもてると考える。そこで、簡単な感想を声に出させ、ジェスチャーをしながら聞くことを取り入れる。また、ジェスチャーをすることで、聞く態度も育てたい。

「へぇ～（相槌)」

「なるほど！（左手パー・右手グー→合わせる)」

「いいね！（親指を立ててグー)」

④　付箋での付け足し

３人での対話・発表、全体で交流することで、友達の考えを聞き合うと、自分の考えが増えてうれしいということを実感させたい。みんなで勉強することは楽しい、みんなで賢くなれたということだと実感させたい。そこで、付け足す考えは、付箋に書いてワークシートに貼らせる。増えていくとうれしくなるという、学習意欲につなげたい。

（３） 展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価規準（観点／方法）・○留意点
導入 １、学習課題を捉える。 （１０分）	T１じぞうさまが、ずっさんずっさんと下ろしていったものは、何でしょうか。 C１米のもち、あわのもちの俵。 C２みそだる、にんじん、ごぼう、だいこん、ごんぼ、だいこんのかます、お飾りのまつり。 T２じぞうさまは、それを持ってくるとき、何と歌っていましたか。 C３『六人のじぞうさ　かさことってかぶせたじさまのうちはどこだ　ばさまのうちはどこだ』です。 〈問題提示〉じぞうさまになりきって、歌いながらもちやおかざりなどを引いてみよう。 C４重すぎる。 C５手が痛い。 C６歌えないよ。 C７じぞうさまってすごい。	○実際の俵、みぞだる、かます、お飾り等をそりに乗せて用意する。 ○重さを実感させ、学習課題を生み出すために、６人で俵やお飾り等が乗っているそりを引かせる。 ○じぞうさまになりきらせるために、お面をかぶせて歌いながらそりを引かせる。
展開 ２　考えの根拠になる文に線を引かせる。 （３分） ３　自力解決、３人での対話、全体で考えを交流する。 （自力解決５分） （３人での対話５分） （全体交流１５分）	〈学習課題〉じぞうさまは、なぜ、もちやおかざりを届けたのか。 Ｔ７じぞうさまがもちやおかざりを届けた理由が分かる文に線を引きましょう。 Ｃ８おつむの雪をかきおとしました。 Ｃ９自分のつぎはぎの手ぬぐいを取ると、一番しまいのじぞうさまにかぶせました。 Ｔ８ワークシートの吹き出しに、じぞうさまは、なぜもちやおかざりを届けたのか、自分の考えをじぞうさまになりきって書きましょう。 Ｃ１０じいさまも寒いのに、じぞうさまのために雪をかきおとしてくれたからだよ。 Ｃ１１なくなったら困るのに、手ぬぐいをじぞうさまにかぶせてくれたからだよ。 Ｔ９自分の考えを３人で発表し合いましょう。	○思い付きの考えにならないように、教科書の文に線を引かせる。 ○線が引けない児童には、じぞうさまになりきって考えるから、じぞうさまの出てくる場面で考えさせる。第５時で引いたじいさまの青の線の中から選ばせる。 ○自分の考えをしっかり持たせるために、ワークシートの挿絵入り吹き出しに書かせる。 ○３人での対話で、いいなと思った友達の考えを、付箋に書いて貼らせる。 ○友達の考えを聞いて、分かち合ったり、認め合ったりするために、感想を声に出し、ジェスチャーをしながら考えを聞かせる。

	Ｔ１０「へぇ～（相槌)」「なるほど！（手を付ける)」「いいね！（グー)」のジェスチャーをしながら、聞きましょう。 Ｔ１１みんなに考えを教えてください。 Ｔ１２「へぇ～」「なるほど！」「いいね！」をしながら聞きましょう。 C１２じいさまが､じぞうさまのおつむの雪をかき落としてくれたからだよ。 C１３じぞうさまに､かさとてぬぐいをかぶせてくれたからだよ。 C１４ばあさまは､じいさまと一緒にかさをつくってくれたからだよ。 C１５じいさまが､じぞうさまにかさを全部かぶせてきたと言っても、いやなかおひとつしなかったからだよ。 T１３こんな風にされて、じぞうさまは、どんな気持ちになったかな。 C１６優しくしてくれてうれしかった。 〈まとめ〉じぞうさまは、じいさまとばあさまが優しくしてくれてうれしかったから、届けた。	○ばあさまのことが出なかったら、じそうさまが歌った歌を歌わせて、ばあさまのことにも目を向けさせる。 ○じいさまとばあさま二人の人柄がわかるように、分けて板書する。
終末 ３　振り返りをする。 （７分）	Ｔ１４振り返りをします。今日の勉強で、新しく分かったことや発見したことを書きましょう。 Ｃ１７最初は、じいさまが優しくしてくれたからだと思っていたけど、じいさまとばあさまの二人が優しくしてくれたから、じぞうさまはもちやおかざりを届けたということが分かりました。	■もちやおかざりなどを届けた理由を、じいさまとばあさまへの感謝の気持ちであると書くことができる。 （ワークシートの振り返り）

（４） 評価

じぞうさまが、もちやおかざりなどを届けた理由を、じいさまとばあさまへの感謝の気持ちであると書くことができる。

７　参考文献・資料

「小学校国語　教科書にそって使える　アクティブラーニング５０の授業実践例」
「アクティブ・ラーニング型　発問づくり」